

令和8年8月26日

館林市立学校適正規模・適正配置 北地区検討委員会

第3回 議題資料

目次

1. 北地区における学校再編の方向性(案)について……2
2. 学校再編の組合せの検討にあたって ……3
3. 学校再編の組合せ(小学校) ……4～30
4. 学校再編の組合せ(中学校) ……31～44

■付属資料集

付属資料 1 各小中学校からの通学距離

付属資料 2 学校施設の状況

1 北地区における学校再編の方向性（案）について

第2回検討委員会での意見等を踏まえ、北地区については次のような学校再編の方向性としてします。

（1）小学校の学校再編について

- ①小学校は2校または3校に統合して適正規模を維持する
- ②第二小学校の学区を見直して分散進学を解消する

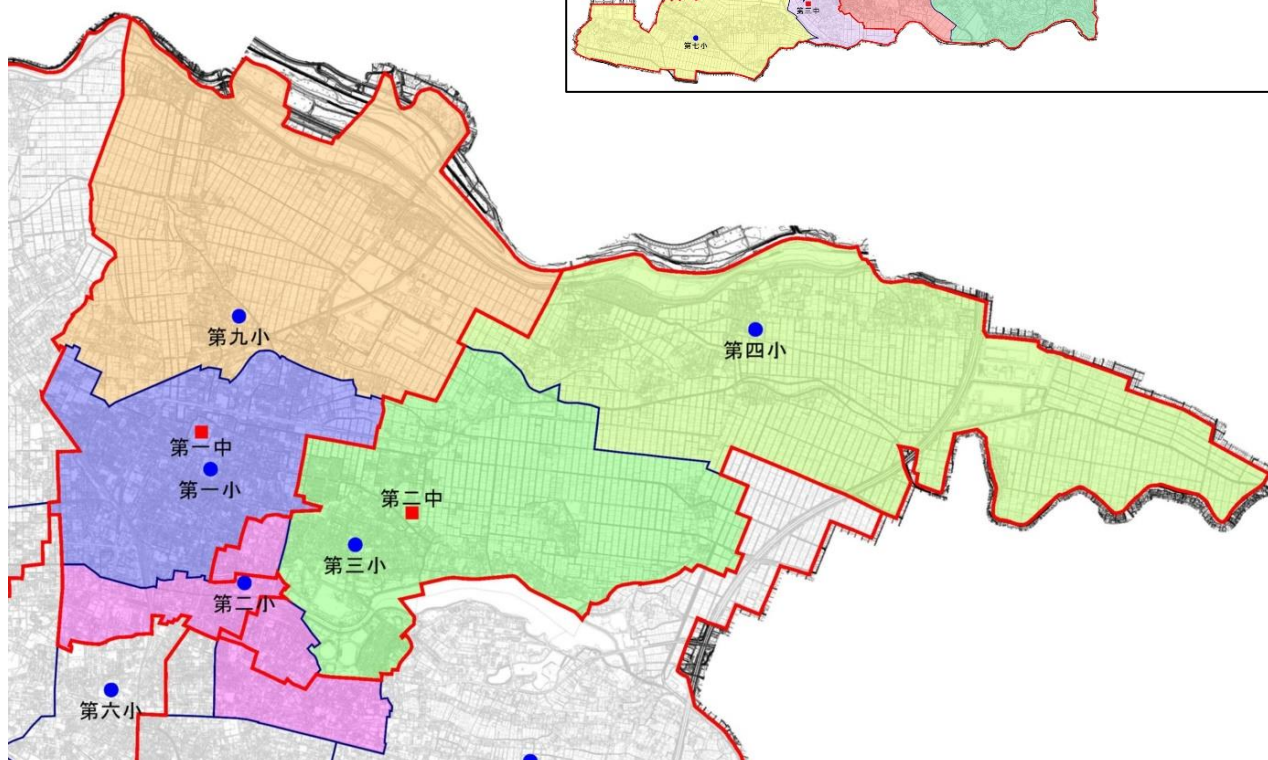
（2）中学校の学校再編について

小学校の再編後、中学校同士を統合して適正規模を維持する（同地区内）

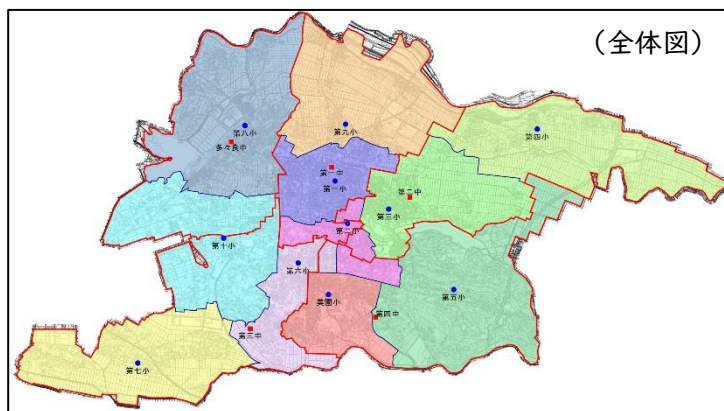
（3）その他の課題解決について

富士見町区（原則第二小学校区だが条件により第六小学校に入学できる）については、小学校再編時に移行期間を設けたうえで同一小学校区にする

（北地区拡大図）



（全体図）



2 学校再編の組合せの検討にあたって

①はじめに小学校の組合せを検討します。

②次に中学校の組合せを検討します。

中学校の組合せについては、小学校の組合せのうち、再編校（小学校）全てが令和 19 年度時点において、適正規模を満たすパターンに限り検討することとします。

3 学校再編の組合せ（小学校）

■ 中学校区内を基本とした統合パターン

	小学校		R19 規模	進学先	摘要
A	再編校 A	一小 + 九小	○	一中	一中学区の2つの小学校（一小・九小）を統合
	二小 （全員）		×	二中	二小は統合の対象とせず、現状を維持
	再編校 B	三小 + 四小	×	二中	二中学区の2つの小学校（三小・四小）を統合
B	再編校 A	一小 + 九小	○	一中	一中学区の2つの小学校（一小・九小）を統合
	二小 （全員）		×	一中	二小は統合の対象とせず、現状を維持
	再編校 B	三小 + 四小	×	二中	二中学区の2つの小学校（三小・四小）を統合
C	再編校 A	一小 + 九小	○	一中	一中学区の2つの小学校（一小・九小）を統合
	再編校 B	二小 （全員） + 三小 + 四小	○	二中	二中学区の2つの小学校（三小・四小）と二小（全員）を統合
D	再編校 A	一小 + 二小 （全員） + 九小	○	一中	一中学区の2つの小学校（一小・九小）と二小（全員）を統合
	再編校 B	三小 + 四小	×	二中	二中学区の2つの小学校（三小・四小）を統合
E	再編校 A	一小 + 二小 （一中学区） + 九小	○	一中	一中学区の2つの小学校（一小・九小）と二小（一中学区）を統合
	再編校 B	二小 （二・四中学区） + 三小 + 四小	○	二中	二中学区の2つの小学校（三小・四小）と二小（二・四中学区）を統合

3 学校再編の組合せ（小学校）

■ 中学校区をまたぐ統合パターン（適正規模未満の小学校同士の統合）

	小学校			R19 規模	進学先	摘要
F	再編校 A	一 小	＋ 四 小	＋ 九 小	○	一 中学区の2つの小学校（一 小・九 小）と四 小を統合
	再編校 B	二 小 （全員）	＋ 三 小		○	二 小（全員）と三 小を統合
G	再編校 A	一 小	＋ 二 小 （全員）		○	一 小と二 小（全員）を統合
	再編校 B	三 小	＋ 四 小	＋ 九 小	○	三 小と小規模校2校（四 小・九 小）を統合
H	再編校 A	一 小	＋ 二 小 （全員）	＋ 三 小	○	一 小と二 小（全員）と三 小を統合
	再編校 B	四 小	＋ 九 小		×	小規模校2校（四 小・九 小）を統合
I	一 小				○	一 小は統合の対象とせず、現状を維持
	再編校 A	四 小	＋ 九 小		×	小規模校2校（四 小・九 小）を統合
	再編校 B	二 小 （全員）	＋ 三 小		○	二 小（全員）と三 小を統合

3 学校再編の組合せ（小学校）

■他地区への学区変更が必要な統合パターン（分散進学解消のための学区変更）

	小学校		R19 規模	進学先	摘要
J	再編校 A	一小 + 二小 (一中学区)	九小	一中	一中学区の2つの小学校(一小・九小)と二小(一中学区)を統合
	再編校 B	二小 (二中学区) + 三小	四小	二中	二中学区の2つの小学校(三小・四小)と二小(二中学区)を統合
	二小 (四中学区)	⇒ 南地区再編校	—	四中	二小の四中学区を南地区の再編校に学区変更
K	再編校 A	一小 + 二小 (一・二中学区)	九小	一中	一中学区の2つの小学校(一小・九小)と二小(一・二中学区)を統合
	再編校 B	三小 + 四小	×	二中	二中学区の2つの小学校(三小・四小)を統合
	二小 (四中学区)	⇒ 南地区再編校	—	四中	二小の四中学区を南地区の再編校に学区変更
L	再編校 A	一小 + 九小	〇	一中	一中学区の2つの小学校(一小・九小)を統合
	再編校 B	二小 (一・二中学区) + 三小	四小	二中	二中学区の2つの小学校(三小・四小)と二小(一・二中学区)を統合
	二小 (四中学区)	⇒ 南地区再編校	—	四中	二小の四中学区を南地区の再編校に学区変更

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンA

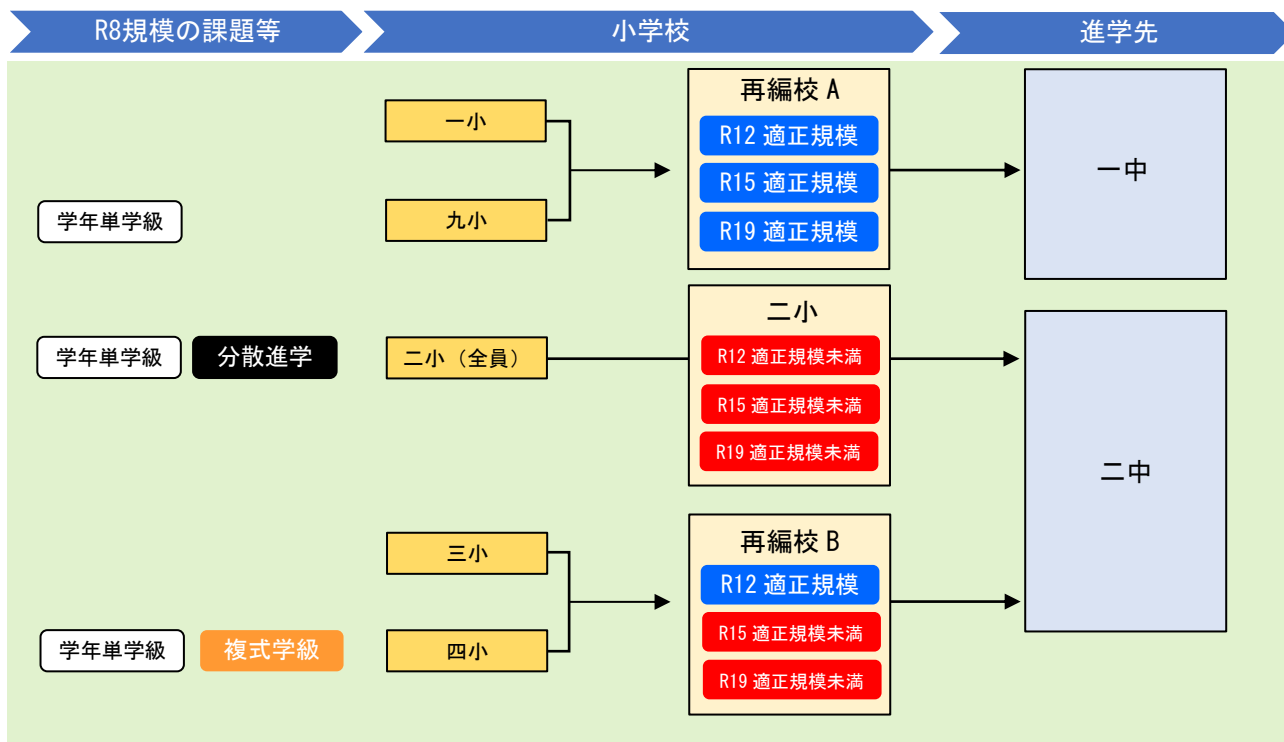
➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・二小は一中学区と四中学区の児童を二中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を二中学区として分散進学を解消を図る

■ 再編方法

- ・一小、九小を統合する（進学先：一中）
- ・二小（全員）は現状を維持する（進学先：二中）
- ・三小、四小を統合する（進学先：二中）



■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
一小	474	17	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13
九小	132	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6
再編校 A	—	—	539	20	515	19	501	18	487	17	473	17	460	16	447	16	434	16

※R8時点の特別支援学級数：一小(7)、九小(2)

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
二小	216	11	195	9	198	10	203	10	201	9	199	8	197	7	195	8	193	9

※R8時点の特別支援学級数：二小(2)

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
三小	327	15	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7
四小	53	5	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3
再編校 B	—	—	274	12	280	12	257	11	244	11	231	10	218	9	206	9	195	8

※R8時点の特別支援学級数：三小(3)、四小(2)

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

■校地の比較

①再編校 A(一、九小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
一 小	S45	25,717	5,543	29
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(9)を 確保できる 見込み ・最長通学距離※4:約3.6km(下早川田町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
九 小	S53	18,949	2,941	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)の 確保に課題 がある ・特別支援学級数※3(9)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約2.7km(栄町)			

②再編校 B(三小、四小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
三 小	S61	16,940	4,870	17
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(12)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(5)を 確保できる 見込み ・最長通学距離※4:約5.8km(大島町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
四 小	S63	14,520	3,473	15
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(12)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(5)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約4.5km(城町)			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室数はR12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】(小学校再編後)中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	319	11	298	10	276	9	259	9	263	9	262	9	280	9	252	8

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二中	—	—	320	11	282	10	254	9	237	9	250	9	240	8	232	8	228	8

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6				小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19								
再編校 A	○	○	○	—	3.6km	一小	○	九小	×	可	不要
二小	×	×	×	解消	—	—				可	必要
再編校 B	○	×	×	—	5.8km	三小	○	四小	△	可	不要

※5 ○:適正規模維持 ×:適正規模未達

※6 ○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンB

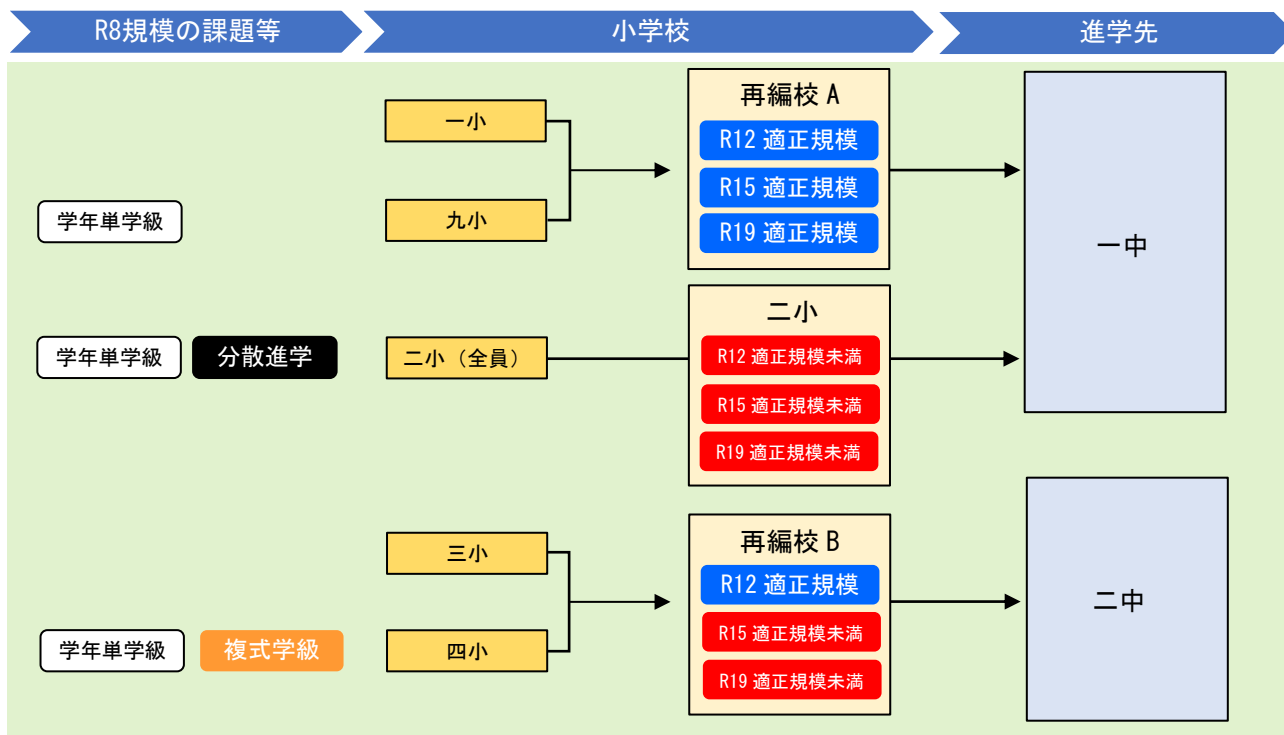
➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・二小は二中学区と四中学区の児童を一中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を一中学区として分散進学を解消を図る

■ 再編方法

- ・一小、九小を統合する（進学先：一中）
- ・二小（全員）は現状を維持する（進学先：一中）
- ・三小、四小を統合する（進学先：二中）



■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
一小	474	17	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13
九小	132	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6
再編校 A	—	—	539	20	515	19	501	18	487	17	473	17	460	16	447	16	434	16

※R8時点の特別支援学級数：一小(7)、九小(2)

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
二小	216	11	195	9	198	10	203	10	201	9	199	8	197	7	195	8	193	9

※R8時点の特別支援学級数：二小(2)

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
三小	327	15	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7
四小	53	5	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3
再編校 B	—	—	274	12	280	12	257	11	244	11	231	10	218	9	206	9	195	8

※R8時点の特別支援学級数：三小(3)、四小(2)

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

■校地の比較

①再編校 A(一、九小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
一 小	S45	25,717	5,543	29
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(9)を確保できる見込み ・最長通学距離※3:約3.6km(下早川田町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
九 小	S53	18,949	2,941	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)の確保に課題がある ・特別支援学級数※3(9)の確保に課題がある ・最長通学距離※3:約2.7km(栄町)			

②再編校 B(三、四小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
三 小	S61	16,940	4,870	17
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(12)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(5)を確保できる見込み ・最長通学距離※4:約5.8km(大島町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
四 小	S63	14,520	3,473	15
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(12)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(5)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約4.5km(城町)			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室数はR12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】(小学校再編後)中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	441	14	404	13	368	12	353	12	369	12	366	12	381	12	344	11

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二中	—	—	198	6	176	6	162	6	143	6	144	6	136	6	131	6	136	6

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6				小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19			一 小	九 小	三 小	四 小		
再編校 A	○	○	○	—	3.6km	一 小	○	九 小	×	可	不要
二小	×	×	×	解消	—	—				可	必要
再編校 B	○	×	×	—	5.8km	三 小	○	四 小	△	可	不要

※5 ○:適正規模維持 ×:適正規模未達

※6 ○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンC

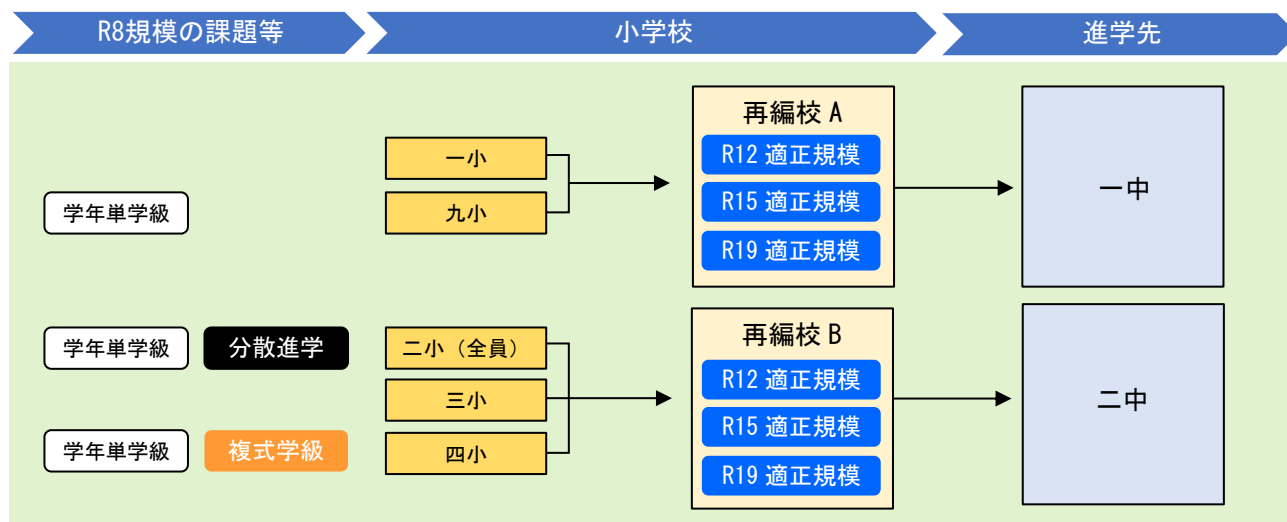
➤付属資料1:小中学校通学距離
➤付属資料2:学校施設の状況

■パターンの考え方

- ・二小は一中学区と四中学区の児童を二中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を二中学区として分散進学を解消を図る

■再編方法

- ・一小、九小を統合する（進学先：一中）
- ・二小（全員）、三小、四小を統合する（進学先：二中）



■小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
一小	474	17	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13
九小	132	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6
再編校 A	—	—	539	20	515	19	501	18	487	17	473	17	460	16	447	16	434	16

※R8時点の特別支援学級数：一小(7)、九小(2)

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
二小	216	11	195	9	198	10	203	10	201	9	199	8	197	7	195	8	193	9
三小	327	15	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7
四小	53	5	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3
再編校 B	—	—	469	18	478	17	460	17	445	17	430	16	415	15	401	14	388	14

※R8時点の特別支援学級数：二小(2)、三小(3)、四小(2)

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

■校地の比較

①再編校 A(一、九小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
一 小	S45	25,717	5,543	29
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(9)を 確保できる 見込み ・最長通学距離※4:約3.6km(下早川田町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
九 小	S53	18,949	2,941	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)の 確保に課題 がある ・特別支援学級数※3(9)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約2.7km(栄町)			

②再編校 B(二小、三小、四小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
二 小	S43	15,502	4,690	25
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(18)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(7)を 確保できる 見込み ・最長通学距離※4:約6.7km(大島町)			
四 小	S63	14,520	3,473	15
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(18)の 確保に課題 がある ・特別支援学級数※3(7)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約6.8km(富士見町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
三 小	S61	16,940	4,870	17
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(18)の 確保に課題 がある ・特別支援学級数※3(7)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約5.8km(大島町)			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値
(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室数はR12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】(小学校再編後)中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	319	11	298	10	276	9	259	9	263	9	262	9	280	9	252	8

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二中	—	—	320	11	282	10	254	9	237	9	250	9	240	8	232	8	228	8

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6						小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19										
再編校 A	○	○	○	—	3.6km	一小	○	九小	×			可	不要
再編校 B	○	○	○	解消	6.8km	二小	○	三小	×	四小	×	可	必要

※5 ○:適正規模維持 ×:適正規模未達

※6 ○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンD

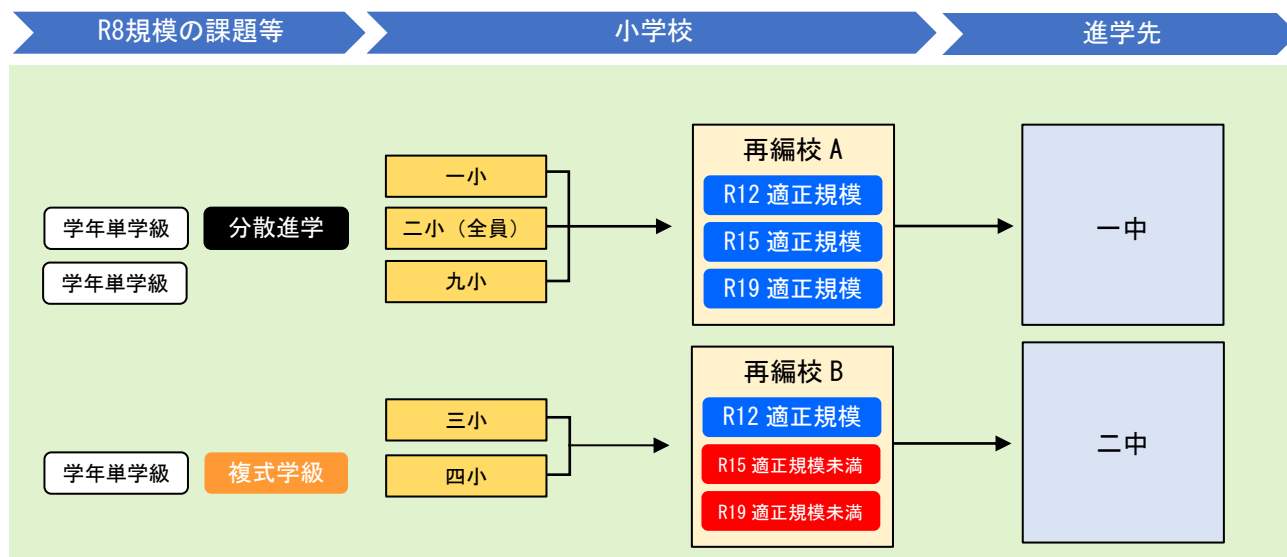
➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・二小は二中学区と四中学区の児童を一中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を一中学区として分散進学を解消を図る

■ 再編方法

- ・一小、二小（全員）、九小を統合する（進学先：一中）
- ・三小、四小を統合する（進学先：二中）



■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
一小	474	17	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13
二小	216	11	195	9	198	10	203	10	201	9	199	8	197	7	195	8	193	9
九小	132	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6
再編校 A	—	—	734	25	713	25	704	24	688	23	672	24	657	23	642	22	627	21

※R8時点の特別支援学級数：一小(7)、二小(2)、九小(2)

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
三小	327	15	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7
四小	53	5	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3
再編校 B	—	—	274	12	280	12	257	11	244	11	231	10	218	9	206	9	195	8

※R8時点の特別支援学級数：三小(3)、四小(2)

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

■校地の比較

①再編校 A(一、二小、九小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S45	25,717	5,543	29
一 小	校地とする場合			
	・普通教室数※2(25)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(11)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約3.6km(下早川田町)			
九 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S53	18,949	2,941	14
九 小	校地とする場合			
	・普通教室数※2(25)の確保に課題がある ・特別支援学級数※3(11)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約4.3km(松原三丁目)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S43	15,502	4,690	25
二 小	校地とする場合			
	・普通教室数※2(25)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(11)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約4.3km(下早川田町)			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値
(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室数はR12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

②再編校 B(三小、四小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S61	16,940	4,870	17
三 小	校地とする場合			
	・普通教室数※2(12)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(5)を確保できる見込み ・最長通学距離※4:約5.8km(大島町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S63	14,520	3,473	15
四 小	校地とする場合			
	・普通教室数※2(12)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(5)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約4.5km(城町)			

【参考】(小学校再編後)中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	441	14	404	13	368	12	353	12	369	12	366	12	381	12	344	11
学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二中	—	—	198	6	176	6	162	6	143	6	144	6	136	6	131	6	136	6

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6					小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19			一 小	二 小	九 小	×			
再編校 A	○	○	○	解消	4.3km	△	△	×			可	必要
再編校 B	○	×	×	—	5.8km	○	△				可	不要

※5 ○:適正規模維持 ×:適正規模未滿

※6 ○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンE

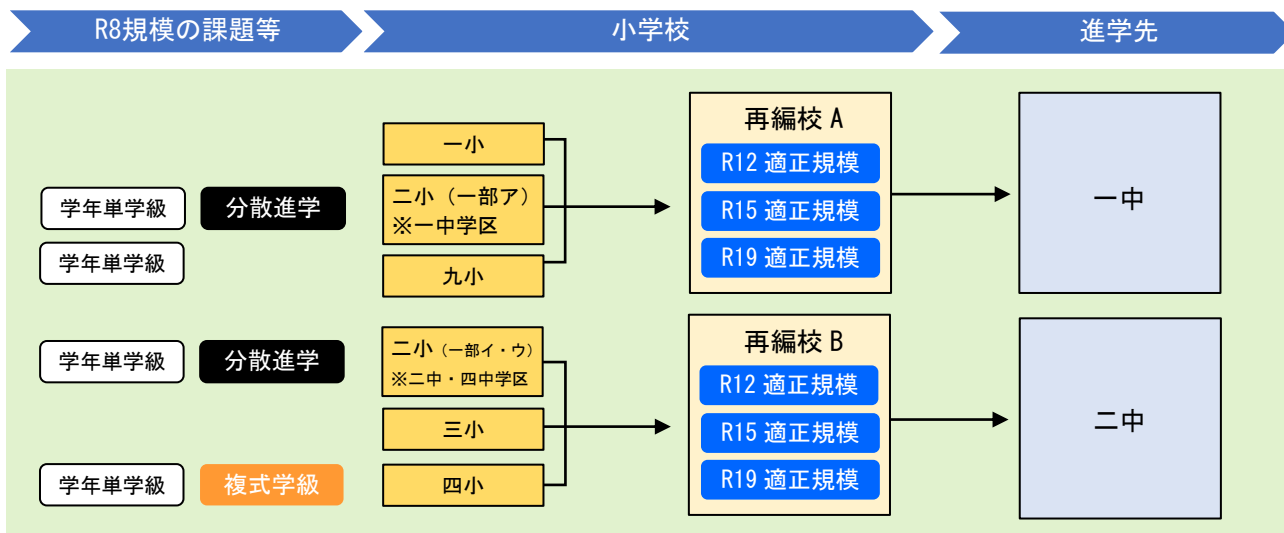
➤付属資料1:小中学校通学距離
➤付属資料2:学校施設の状況

■パターンの考え方

- ・二小学区の児童を一中学区、二中学区及び四中学区に再編し、分散進学を解消を図る

■再編方法

- ・一小、二小（一中学区）、九小を統合する（進学先：一中）
- ・二小（二中・四中学区）、三小、四小を統合する（進学先：二中）



※二小の一部ア（一中学区：千代田町、富士見町の一部、本町二丁目の一部、本町三丁目、本町四丁目）

※二小の一部イ（二中学区：大手町、本町二丁目の一部、松原一丁目）

※二小の一部ウ（四中学区：松原二丁目、松原三丁目、緑町二丁目）

■小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
一小	474	17	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13
二小（一部ア）	-	-	81	-	85	-	86	-	85	-	84	-	83	-	82	-	81	-
九小	132	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6
再編校 A	-	-	620	21	600	20	587	21	572	21	557	20	543	20	529	19	515	19

※R8時点の特別支援学級数：一小（7）、二小（2）、九小（2）

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
二小（一部イ・ウ）	-	-	109	-	109	-	114	-	113	-	112	-	111	-	110	-	108	-
三小	327	15	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7
四小	53	5	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3
再編校 B	-	-	383	14	389	15	371	14	357	12	343	12	329	12	316	12	303	12

※R8時点の特別支援学級数：二小（2）、三小（3）、四小（2）

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

■校地の比較

①再編校 A(一小、二小、九小)

一 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S45	25,717	5,543	29
	校地とする場合			
九 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S53	18,949	2,941	14
	校地とする場合			
二 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S43	15,502	4,690	25
	校地とする場合			

一 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S45	25,717	5,543	29
	校地とする場合			
二 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S43	15,502	4,690	25
	校地とする場合			

②再編校 B(二小、三小、四小)

二 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S43	15,502	4,690	25
	校地とする場合			
四 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S63	14,520	3,473	15
	校地とする場合			

二 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S43	15,502	4,690	25
	校地とする場合			
三 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S61	16,940	4,870	17
	校地とする場合			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値
(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室はR12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】(小学校再編後)中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	-	-	367	12	340	11	313	10	296	9	306	10	306	10	324	11	294	10

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二中	-	-	264	9	233	8	211	7	196	7	205	7	196	7	187	6	184	6

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6						小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19			一 小	二 小	三 小	四 小	五 小	六 小		
再編校 A	○	○	○	解消	4.3km	△	△	△	×	×	×	可	必要
再編校 B	○	○	○	解消	6.7km	○	○	△	△	△	△	可	必要

※5 ○:適正規模維持 ×:適正規模未達

※6 ○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンF

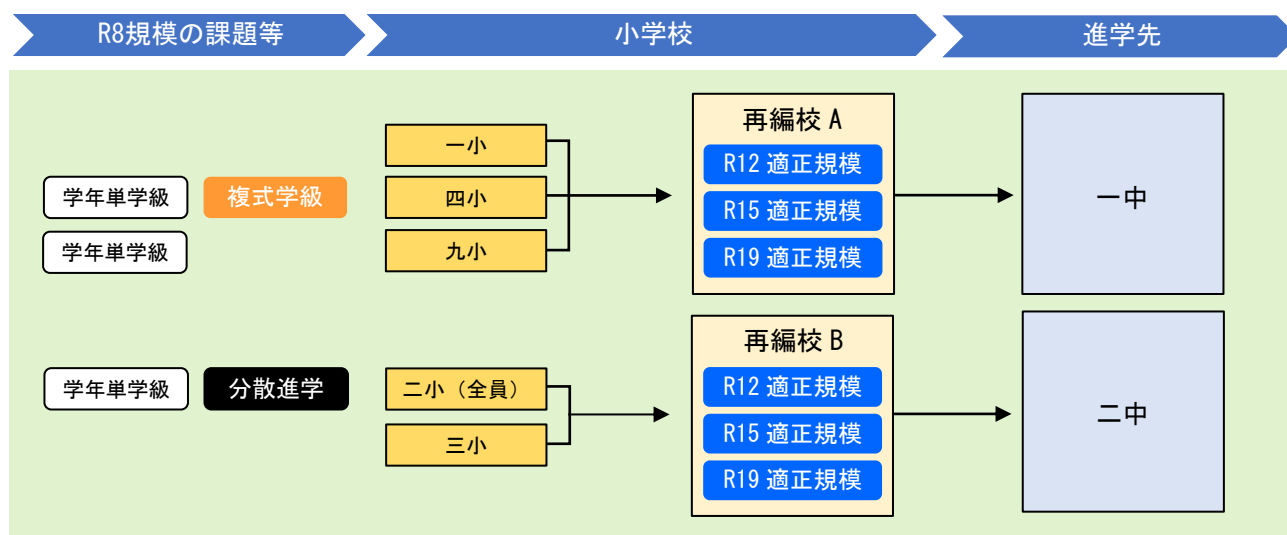
➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・二小は一中学区と四中学区の児童を二中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を二中学区として分散進学を解消を図る

■ 再編方法

- ・一小、四小、九小を統合する（進学先：一中）
- ・二小（全員）、三小を統合する（進学先：二中）



■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
一小	474	17	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13
四小	53	5	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3
九小	132	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6
再編校 A	—	—	569	20	544	19	528	18	512	18	496	18	481	17	466	17	451	16

※R8時点の特別支援学級数：一小（7）、四小（2）、九小（2）

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
二小	216	11	195	9	198	10	203	10	201	9	199	8	197	7	195	8	193	9
三小	327	15	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7
再編校 B	—	—	439	17	449	17	433	15	420	15	407	15	394	14	382	13	371	13

※R8時点の特別支援学級数：二小（2）、三小（3）

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

■校地の比較

①再編校 A(一、四小、九小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S45	25,717	5,543	29
一 小	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(11)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約 6.8km(大島町)			
九 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S53	18,949	2,941	14
九 小	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)の 確保に課題 がある ・特別支援学級数※3(11)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約 6.5km(大島町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S63	14,520	3,473	15
四 小	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)の 確保に課題 がある ・特別支援学級数※3(11)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約 5.9km(岡野町)			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値
(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室数は R12 時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数は R8 時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

②再編校 B(二小、三小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S43	15,502	4,690	25
二 小	校地とする場合			
	・普通教室数※2(17)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(5)を 確保できる 見込み ・最長通学距離※4:約 3.9km(四ツ谷町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S61	16,940	4,870	17
三 小	校地とする場合			
	・普通教室数※2(17)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(5)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約 3.2km(四ツ谷町)			

【参考】(小学校再編後)中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	348	11	323	10	296	9	275	9	279	9	273	9	294	9	265	9

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二中	—	—	291	9	257	8	234	8	221	8	234	9	229	8	218	7	215	7

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6						小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19			一 小	△	四 小	×	九 小	×		
再編校 A	○	○	○	—	6.8km	一 小	△	四 小	×	九 小	×	可	不要
再編校 B	○	○	○	解消	3.9km	二 小	○	三 小	△			可	必要

※5 ○:適正規模維持 ×:適正規模未滿

※6 ○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンG

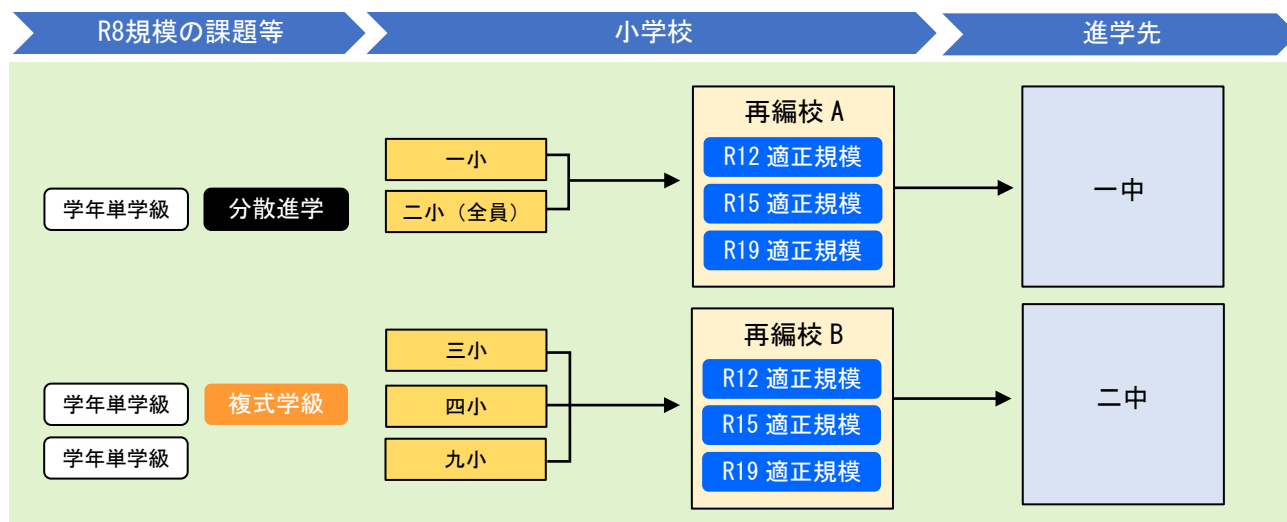
➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・二小は二中学区と四中学区の児童を一中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を一中学区として分散進学を解消を図る

■ 再編方法

- ・一小、二小（全員）を統合する（進学先：一中）
- ・三小、四小、九小を統合する（進学先：二中）



■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
一小	474	17	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13
二小	216	11	195	9	198	10	203	10	201	9	199	8	197	7	195	8	193	9
再編校 A	—	—	615	21	594	20	596	21	583	21	570	20	558	20	546	19	534	19

※R8時点の特別支援学級数：一小(7)、二小(2)

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
三小	327	15	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7
四小	53	5	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3
九小	132	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6
再編校 B	—	—	393	15	399	15	365	13	349	12	333	12	317	12	302	12	288	12

※R8時点の特別支援学級数：三小(3)、四小(2)、九小(2)

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

■校地の比較

①再編校 A(一、二小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
一 小	S45	25,717	5,543	29
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(21)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(9)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約 3.1km(松原三丁目)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
二 小	S43	15,502	4,690	25
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(21)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(9)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約 2.3km(大街道二丁目)			

②再編校 B(三小、四小、九小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
三 小	S61	16,940	4,870	17
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(15)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(7)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約 5.8km(大島町)			
九 小	S53	18,949	2,941	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(15)の確保に課題がある ・特別支援学級数※3(7)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約 6.5km(大島町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
四 小	S63	14,520	3,473	15
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(15)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(7)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約 5.9km(岡野町)			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値
(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室数は R12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数は R8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】(小学校再編後)中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	-	-	369	12	337	11	306	10	291	9	305	10	306	10	324	11	289	10

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二中	-	-	270	9	243	8	224	8	205	7	208	7	196	6	188	6	191	6

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6					小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19			一 小	二 小	三 小	四 小	九 小		
再編校 A	○	○	○	解消	3.1km	△	△	△	△	×	可	必要
再編校 B	○	○	○	—	6.5km	△	△	△	△	×	可	不要

※5 ○:適正規模維持 ×:適正規模未滿

※6 ○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンH

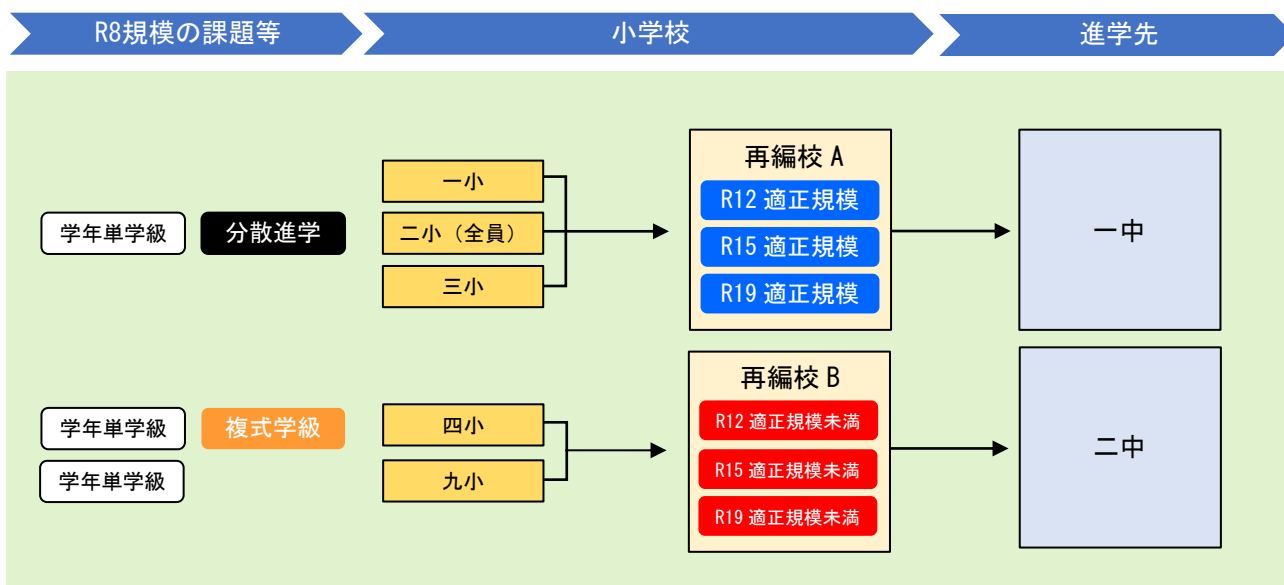
➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・二小は二中学区と四中学区の児童を一中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を一中学区として分散進学を解消を図る

■ 再編方法

- ・一小、二小（全員）、三小を統合する（進学先：一中）
- ・四小、九小を統合する（進学先：二中）



■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
一小	474	17	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13
二小	216	11	195	9	198	10	203	10	201	9	199	8	197	7	195	8	193	9
三小	327	15	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7
再編校 A	—	—	859	28	845	29	826	29	802	28	778	27	755	26	733	25	712	25

※R8時点の特別支援学級数：一小（7）、二小（2）、三小（3）

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
四小	53	5	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3
九小	132	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6
再編校 B	—	—	149	6	148	6	135	6	130	6	125	6	120	6	115	6	110	6

※R8時点の特別支援学級数：四小（2）、九小（2）

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

■校地の比較

①再編校 A(一小、二小、三小)

一 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S45	25,717	5,543	29
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(28)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(12)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約4.1km(四ツ谷町)			
三 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S61	16,940	4,870	17
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(28)の 確保に課題 がある ・特別支援学級数※3(12)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約3.2km(四ツ谷町)			

二 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S43	15,502	4,690	25
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(28)の 確保に課題 がある ・特別支援学級数※3(12)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約3.9km(四ツ谷町)			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値
(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室数はR12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

②再編校 B(四小、九小)

四 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S63	14,520	3,473	15
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(6)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(4)を 確保できる 見込み ・最長通学距離※4:約5.9km(岡野町)			

九 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S53	18,949	2,941	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(6)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(4)を 確保できる 見込み ・最長通学距離※4:約6.5km(大島町)			

【参考】(小学校再編後)中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	538	17	488	15	448	14	418	13	433	14	431	14	441	15	412	14

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二中	—	—	101	4	92	4	82	3	78	3	80	3	71	3	71	3	74	3

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6					小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19			一 小	二 小	三 小	四 小	九 小		
再編校 A	○	○	○	解消	4.1km	△	×	×	×	×	可	必要
再編校 B	×	×	×	—	6.5km	○	○	○	○	○	可	不要

※5 ○:適正規模維持 ×:適正規模未滿

※6 ○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンⅠ

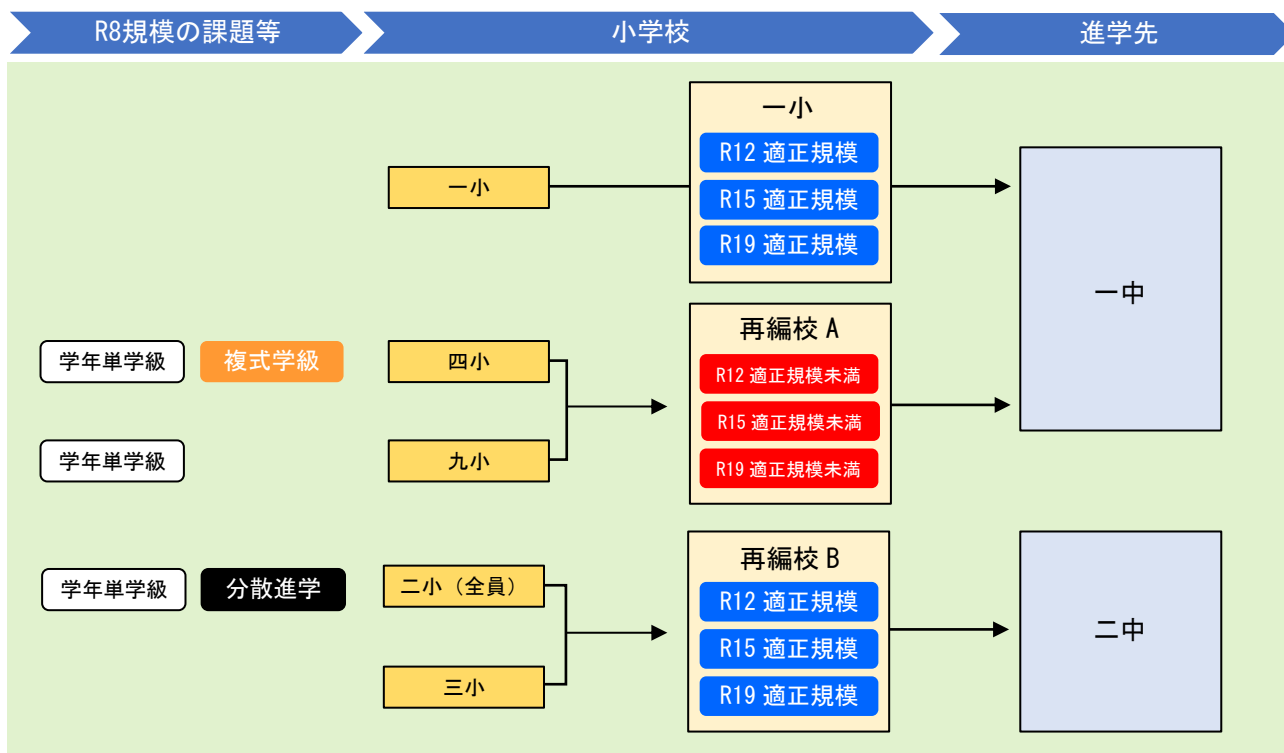
➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・二小は一中学区と四中学区の児童を二中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を二中学区として分散進学を解消を図る

■ 再編方法

- ・一小は現状を維持する（進学先：一中）
- ・四小、九小を統合する（進学先：一中）
- ・二小（全員）、三小を統合する（進学先：二中）



■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
一小	474	24	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13

※R8時点の特別支援学級数：一小(7)

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
四小	53	5	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3
九小	132	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6
再編校 A	—	—	149	6	148	6	135	6	130	6	125	6	120	6	115	6	110	6

※R8時点の特別支援学級数：四小(2)、九小(2)

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
二小	216	11	195	9	198	10	203	10	201	9	199	8	197	7	195	8	193	9
三小	327	15	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7
再編校 B	—	—	439	17	449	17	433	15	420	15	407	15	394	14	382	13	371	13

※R8時点の特別支援学級数：二小(2)、三小(3)

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

■校地の比較

①再編校 A(四小、九小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
四小	S63	14,520	3,473	15
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(6)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(4)を確保できる見込み ・最長通学距離※4:約 5.9km(岡野町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
九小	S53	18,949	2,941	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(6)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(4)を確保できる見込み ・最長通学距離※4:約 6.5km(大島町)			

②再編校 B(二小、三小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
二小	S43	15,502	4,690	25
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(17)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(5)を確保できる見込み ・最長通学距離※4:約3.9km(四ツ谷町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
三小	S61	16,940	4,870	17
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(17)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(5)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約3.2km(四ツ谷町)			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室数は R12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数は R8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】(小学校再編後)中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	348	11	323	10	296	9	275	9	279	9	273	9	294	9	265	9

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二中	—	—	291	9	257	8	234	8	221	8	234	9	229	8	218	7	215	7

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6				小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19								
一小	○	○	○	—	—	—				可	—
再編校 A	×	×	×	—	6.5km	四小	○	九小	○	可	不要
再編校 B	○	○	○	解消	3.9km	二小	○	三小	△	可	必要

※5 ○:適正規模維持 ×:適正規模未達

※6 ○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンJ

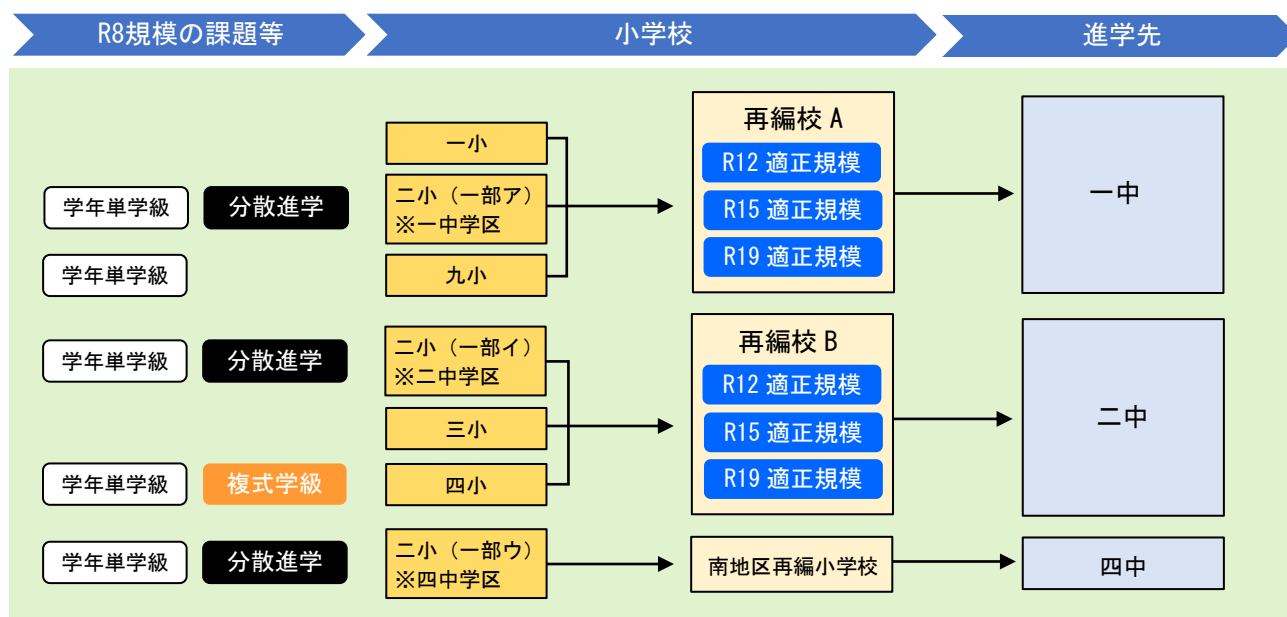
➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・二小学区の児童を進学先となる各中学校区に再編し、分散進学を解消を図る

■ 再編方法

- ・一小、二小（一中学区）、九小を統合する（進学先：一中）
- ・二小（二中学区）、三小、四小を統合する（進学先：二中）
- ・二小（四中学区）の児童を南地区再編小学校へ就学する学区の見直しを行う（進学先：四中）



※二小の一部ア（一中学区：千代田町、富士見町の一部、本町二丁目の一部、本町三丁目、本町四丁目）
 ※二小の一部イ（二中学区：大手町、本町二丁目の一部、松原一丁目）
 ※二小の一部ウ（四中学区：松原二丁目、松原三丁目、緑町二丁目）

■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
一小	474	17	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13
二小（一部ア）	-	-	81	-	85	-	86	-	85	-	84	-	83	-	82	-	81	-
九小	132	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6
再編校 A	-	-	620	21	600	20	587	21	572	21	557	20	543	20	529	19	515	19

※R8時点の特別支援学級数：一小（7）、二小（2）、九小（2）

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
二小（一部イ）	-	-	46	-	47	-	50	-	50	-	50	-	50	-	50	-	50	-
三小	327	15	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7
四小	53	5	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3
再編校 B	-	-	320	12	327	12	307	12	294	12	281	12	268	12	256	12	245	12

※R8時点の特別支援学級数：二小（2）、三小（3）、四小（2）

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

■校地の比較

①再編校 A(一小、二小、九小)

一 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S45	25,717	5,543	29
校地とする場合				
・普通教室数※2(21)を確保できる見込み ・特別支援学級※3(11)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約3.6km(下早川田町)				
九 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S53	18,949	2,941	14
校地とする場合				
・普通教室数※2(21)の確保に課題がある ・特別支援学級数※3(11)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約2.7km(本町四丁目)				

二 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S43	15,502	4,690	25
校地とする場合				
・普通教室数※2(21)を確保できる見込み ・特別支援学級※3(11)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約4.3km(下早川田町)				

②再編校 B(二小、三小、四小)

二 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S43	15,502	4,690	25
校地とする場合				
・普通教室数※2(12)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(7)を確保できる見込み ・最長通学距離※4:約6.7km(大島町)				
四 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S63	14,520	3,473	15
校地とする場合				
・普通教室数※2(12)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(7)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約5.5km(松原一丁目)				

三 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S61	16,940	4,870	17
校地とする場合				
・普通教室数※2(12)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(7)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約5.8km(大島町)				

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値
(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室数はR12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】(小学校再編後)中学校の生徒数・学級数の推定

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	367	12	340	11	313	10	296	9	306	10	306	10	324	11	294	10
学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二中	—	—	224	9	198	8	181	7	162	6	170	6	162	6	158	6	157	6

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6						小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19										
再編校 A	○	○	○	解消	4.3km	一小	△	二小	△	九小	×	可	必要
再編校 B	○	○	○	解消	6.7km	二小	○	三小	△	四小	△	可	必要

※5 ○:適正規模維持 ×:適正規模未達

※6 ○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンK

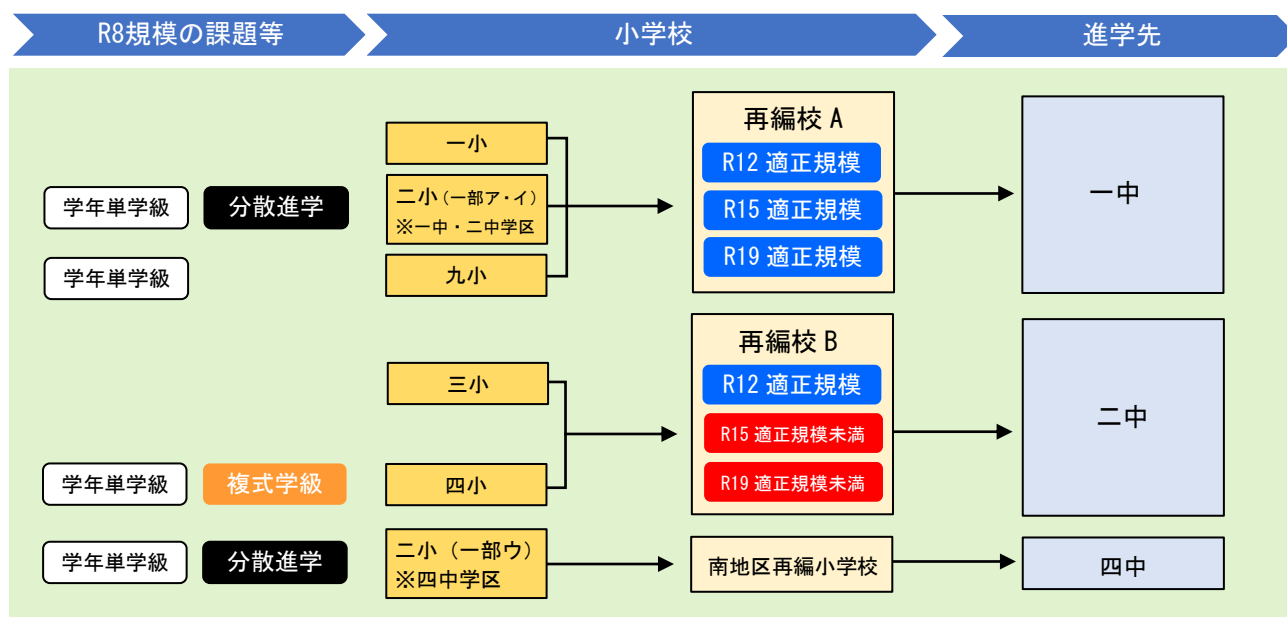
➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

・二小学区の児童を一中学区及び二中学区、四中学区に再編し、分散進学を解消を図る

■ 再編方法

- ・一小、二小（一中・二中学区）、九小を統合する（進学先：一中）
- ・三小、四小を統合する（進学先：二中）
- ・二小（四中学区）の児童を南地区再編小学校へ就学する学区の見直しを行う（進学先：四中）



※二小の一部ア（一中学区：千代田町、富士見町の一部、本町二丁目の一部、本町三丁目、本町四丁目）

※二小の一部イ（二中学区：大手町、本町二丁目の一部、松原一丁目）

※二小の一部ウ（四中学区：松原二丁目、松原三丁目、緑町二丁目）

■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
一小	474	17	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13
二小 (一部ア・イ)	—	—	127	—	132	—	136	—	135	—	134	—	133	—	132	—	131	—
九小	132	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6
再編校 A	—	—	666	23	647	22	637	22	622	22	607	21	593	21	579	21	565	20

※R8時点の特別支援学級数：一小(7)、二小(2)、九小(2)

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
三小	327	15	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7
四小	53	5	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3
再編校 B	—	—	274	12	280	12	257	11	244	11	231	10	218	9	206	9	195	8

※R8時点の特別支援学級数：三小(3)、四小(2)

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

■校地の比較

①再編校 A(一、二小[一中・二中学区]、九小)

一 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S45	25,717	5,543	29
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(23)を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3(11)の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4:約3.6km(下早川田町)			
九 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S53	18,949	2,941	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(23)の確保に課題がある			
	・特別支援学級数※3(11)の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4:約2.7km(本町四丁目)			

二 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S43	15,502	4,690	25
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(23)を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3(11)の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4:約4.3km(下早川田町)			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値
(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室数はR12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

②再編校 B(三小、四小)

三 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S61	16,940	4,870	17
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(12)を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3(5)を確保できる見込み			
	・最長通学距離※4:約5.8km(大島町)			

四 小	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
	S63	14,520	3,473	15
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(12)を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3(5)の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4:約4.5km(城町)			

【参考】(小学校再編後)中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	393	12	362	12	332	12	315	11	332	11	332	11	351	12	315	11

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二中	—	—	198	6	176	6	162	6	143	6	144	6	136	6	131	6	136	6

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6					小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19			一 小	二 小	九 小	×			
再編校 A	○	○	○	解消	4.3km	△	△	×			可	必要
再編校 B	○	×	×	—	5.8km	○	△				可	不要

※5 ○:適正規模維持 ×:適正規模未滿

※6 ○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンL

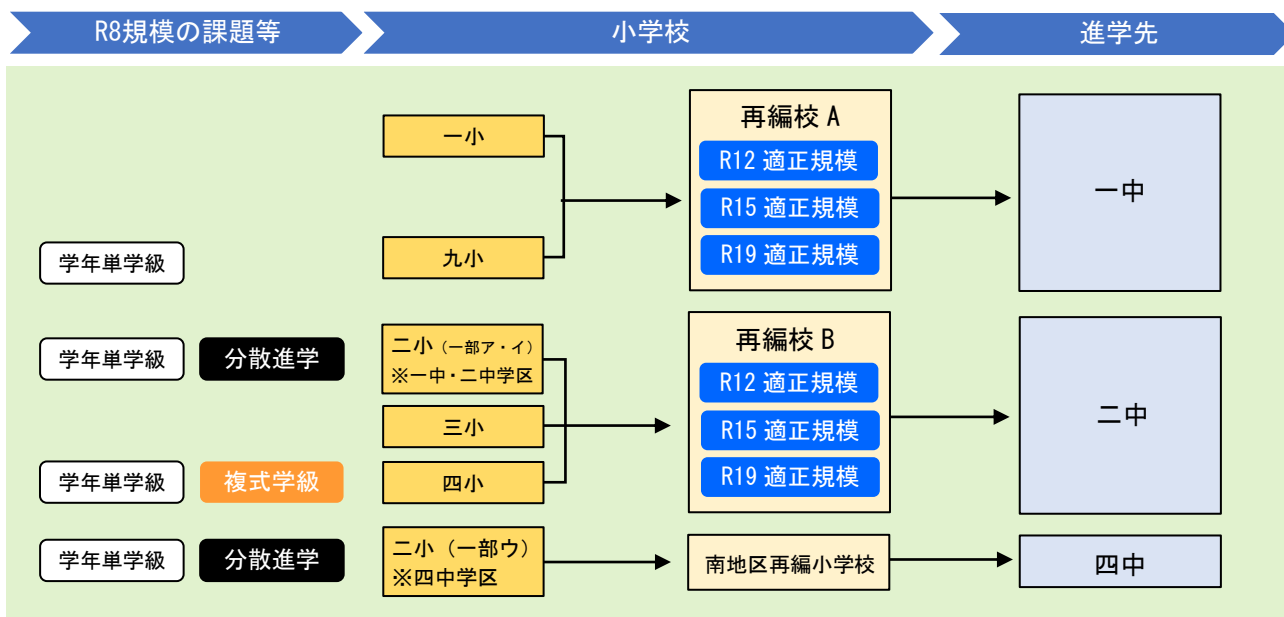
➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・二小学区の児童を一中学区及び二中学区、四中学区に再編し、分散進学を解消を図る

■ 再編方法

- ・一小、九小を統合する（進学先：一中）
- ・二小（一中・二中学区）、三小、四小を統合する（進学先：二中）
- ・二小（四中学区）の児童を南地区再編小学校へ就学する学区の見直しを行う（進学先：四中）



※二小の一部ア（一中学区：千代田町、富士見町の一部、本町二丁目の一部、本町三丁目、本町四丁目）
 ※二小の一部イ（二中学区：大手町、本町二丁目の一部、松原一丁目）
 ※二小の一部ウ（四中学区：松原二丁目、松原三丁目、緑町二丁目）

■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
一小	474	17	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13
九小	132	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6
再編校 A	—	—	539	20	515	19	501	18	487	17	473	17	460	16	447	16	434	16

※R8時点の特別支援学級数：一小（7）、九小（2）

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
二小（一部ア・イ）	—	—	127	—	132	—	136	—	135	—	134	—	133	—	132	—	131	—
三小	327	15	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7
四小	53	5	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3
再編校 B	—	—	401	15	412	15	393	14	379	14	365	13	351	13	338	13	326	12

※R8時点の特別支援学級数：二小（2）、三小（3）、四小（2）

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

■校地の比較

①再編校 A(一、九小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
一 小	S45	25,717	5,543	29
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(9)を 確保できる 見込み ・最長通学距離※4:約3.6km(下早川田町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
九 小	S53	18,949	2,941	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)の 確保に課題 がある ・特別支援学級数※3(9)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約2.7km(栄町)			

②再編校 B(二小、三小、四小)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
二 小	S43	15,502	4,690	25
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(15)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(7)を 確保できる 見込み ・最長通学距離※4:約6.7km(大島町)			
四 小	S63	14,520	3,473	15
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(15)を 確保できる 見込み ・特別支援学級※3(7)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約5.5km(松原一丁目)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
三 小	S61	16,940	4,870	17
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(15)を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3(7)の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4:約5.8km(大島町)			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値
(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室数はR12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】(小学校再編後)中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	319	11	298	10	276	9	259	9	263	9	262	9	280	9	252	8
学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二中	—	—	272	9	240	8	218	7	199	6	213	7	206	7	202	7	199	7

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6					小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19									
再編校 A	○	○	○	—	3.6km	一小	○	九小	×		可	不要
再編校 B	○	○	○	解消	6.7km	二小	○	三小	△	四小 △	可	必要

※5 ○:適正規模維持 ×:適正規模未達

※6 ○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

4 学校再編の組合せ（中学校）

■北地区内で統合するパターン

	小学校					中学校				R19 規模	
C'	再編校 A	一小	+	九小	⇧	一 中	⇧	一 中	+	二 中	○
	再編校 B	二小 (全員)	+	三小 + 四小	⇧	二 中					
	小学校パターン C を基にした一中と二中の統合										
E'	再編校 A	一小	+	二小 (一中学区)	⇧	一 中	⇧	一 中	+	二 中	○
	再編校 B	二小 (二中・四中学区)	+	三小 + 四小	⇧	二 中					
	小学校パターン E を基にした一中と二中の統合										
F'	再編校 A	一小	+	四小	⇧	一 中	⇧	一 中	+	二 中	○
	再編校 B	二小(全員)	+	三小	⇧	二 中					
	小学校パターン F を基にした一中と二中の統合										
G'	再編校 A	一小	+	二小 (全員)	⇧	一 中	⇧	一 中	+	二 中	○
	再編校 B	三小	+	四小 + 九小	⇧	二 中					
	小学校パターン G を基にした一中と二中の統合										
J'	再編校 A	一小	+	二小 (一中学区)	⇧	一 中	⇧	一 中	+	二 中	○
	再編校 B	二小 (二中学区)	+	三小 + 四小	⇧	二 中					
	二小 (四中学区)	⇒ 南地区再編校				四 中					
	小学校パターン J を基にした一中と二中の統合										

4 学校再編の組合せ（中学校）

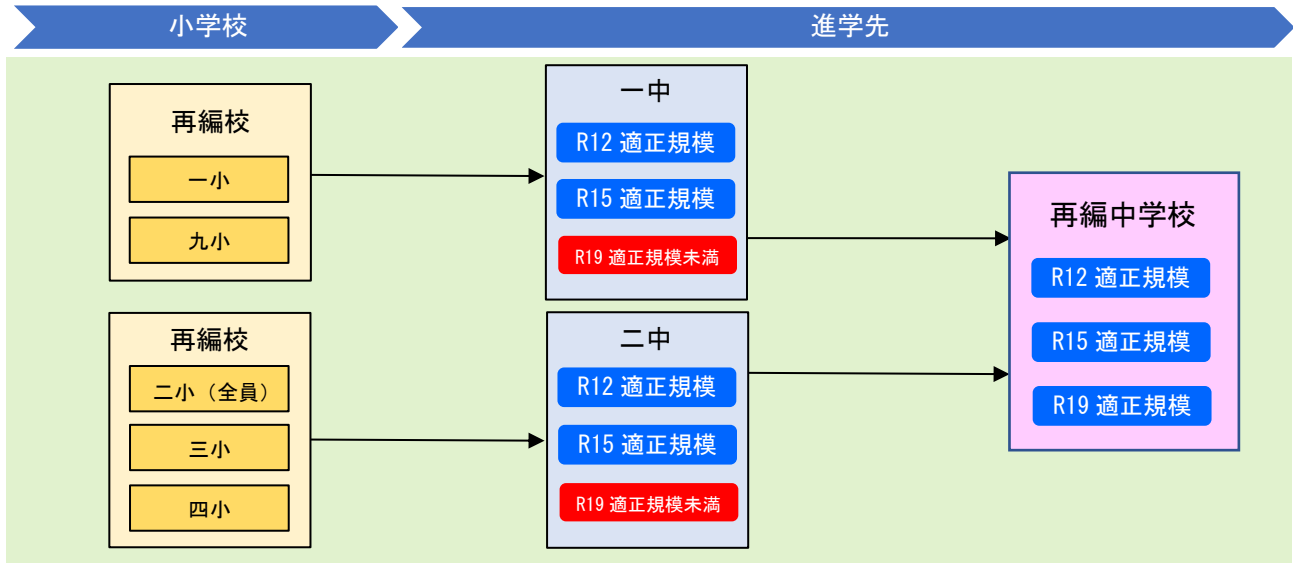
	小学校					中学校				R19 規模	
L'	再編校 A	一 小	+	九 小	↑	中 一	↑	中 一	+	中 二	○
	再編校 B	二 小 (一・中・二学区)	+	三 小	↑	中 二	↑				
	二 小 (四学区)	⇒ 南地区再編校			↑	中 四					
	小学校パターンLを基にした一・中と二・中の統合										

4. 学校再編の組合せ（中学校）パターンC'

➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

・小学校Cパターンを基にした中学校同士の統合



■ 中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	319	11	298	10	276	9	259	9	263	9	262	9	280	9	252	8
二中	—	—	320	11	282	10	254	9	237	9	250	9	240	8	232	8	228	8
再編中学校	—	—	639	20	580	18	530	16	496	15	513	16	502	16	512	16	480	15

※R8時点の特別支援学級数: 一中(4)、二中(3)

■校地の比較（一中、二中）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
一 中	S51	34,716	6,051	27
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（20）を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3（7）を 確保できる 見込み ・最長通学距離※4：約6.8km（大島町）			
	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
二 中	H14	27,422	5,811	19
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（20）の 確保に課題 がある ・特別支援学級数※3（7）の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4：約5.2km（大島町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離 (最長)	教室数の確保※6				小中連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	6.8km	一中	○	二中	×	可	必要

※5 ○：適正規模維持 ×：適正規模未滿

※6 ○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

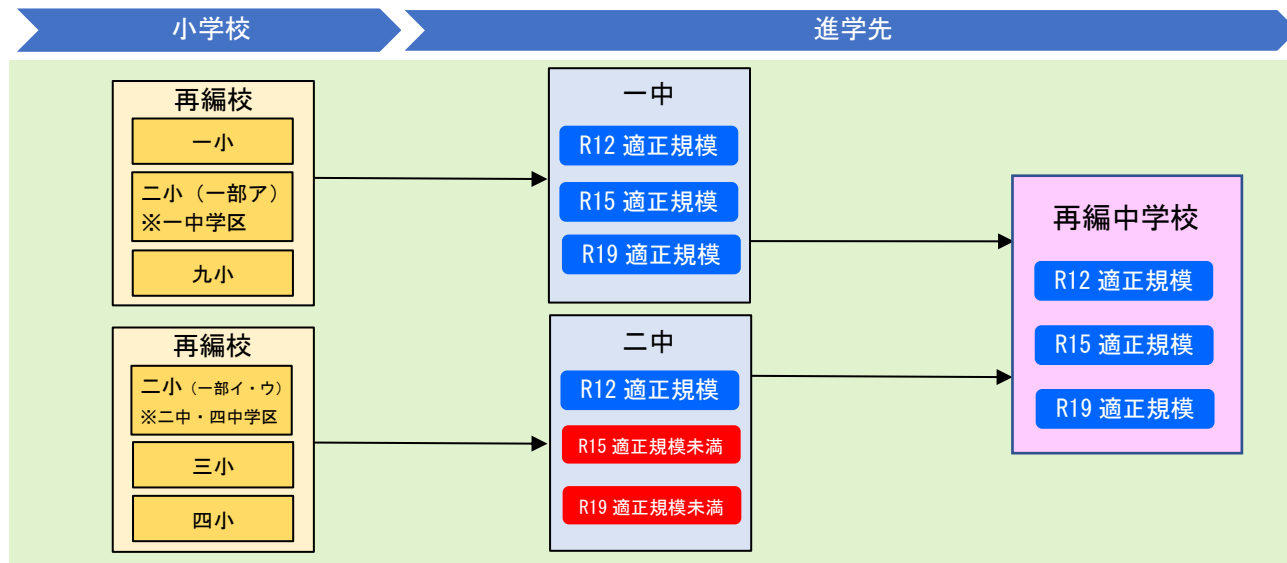
×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

4. 学校再編の組合せ（中学校）パターンE'

➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

・小学校Eパターンを基にした中学校同士の統合



■ 中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	367	12	340	11	313	10	296	9	306	10	306	10	324	11	294	10
二中	—	—	264	9	233	8	211	7	196	7	205	7	196	7	187	6	184	6
再編中学校	—	—	631	20	573	18	524	16	492	15	511	16	502	16	512	16	478	15

※R8時点の特別支援学級数: 一中(4)、二中(3)

■校地の比較（一中、二中）

一 中	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
	S51	34,716	6,051	27
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（20）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（7）を確保できる見込み ・最長通学距離※4：約6.8km（大島町）			

二 中	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
	H14	27,422	5,811	19
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（20）の確保に課題がある ・特別支援学級数※3（7）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約5.2km（大島町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離 (最長)	教室数の確保※6				小中連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	6.8km	一中	○	二中	×	可	必要

※5 ○：適正規模維持 ×：適正規模未満

※6 ○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

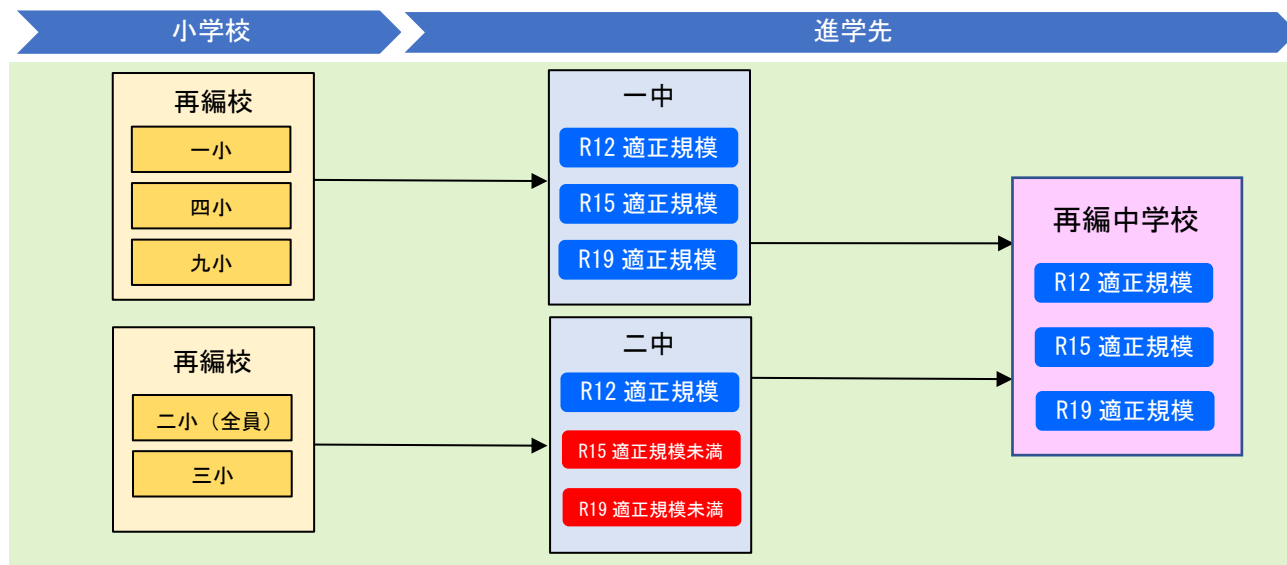
×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

4. 学校再編の組合せ（中学校）パターンF'

➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

・小学校Fパターンを基にした中学校同士の統合



■ 中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	348	11	323	10	296	9	275	9	279	9	273	9	294	9	265	9
二中	—	—	291	9	257	8	234	8	221	8	234	9	229	8	218	7	215	7
再編中学校	—	—	639	20	580	18	530	16	496	15	513	16	502	16	512	16	480	15

※R8時点の特別支援学級数：一中（4）、二中（3）

■校地の比較（一中、二中）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
一 中	S51	34,716	6,051	27
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（20）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（7）を確保できる見込み ・最長通学距離※4：約6.8km（大島町）			
	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
二 中	H14	27,422	5,811	19
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（20）の確保に課題がある ・特別支援学級数※3（7）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約5.2km（大島町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離 (最長)	教室数の確保※6				小中連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	6.8km	一中	○	二中	×	可	必要

※5 ○：適正規模維持 ×：適正規模未滿

※6 ○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

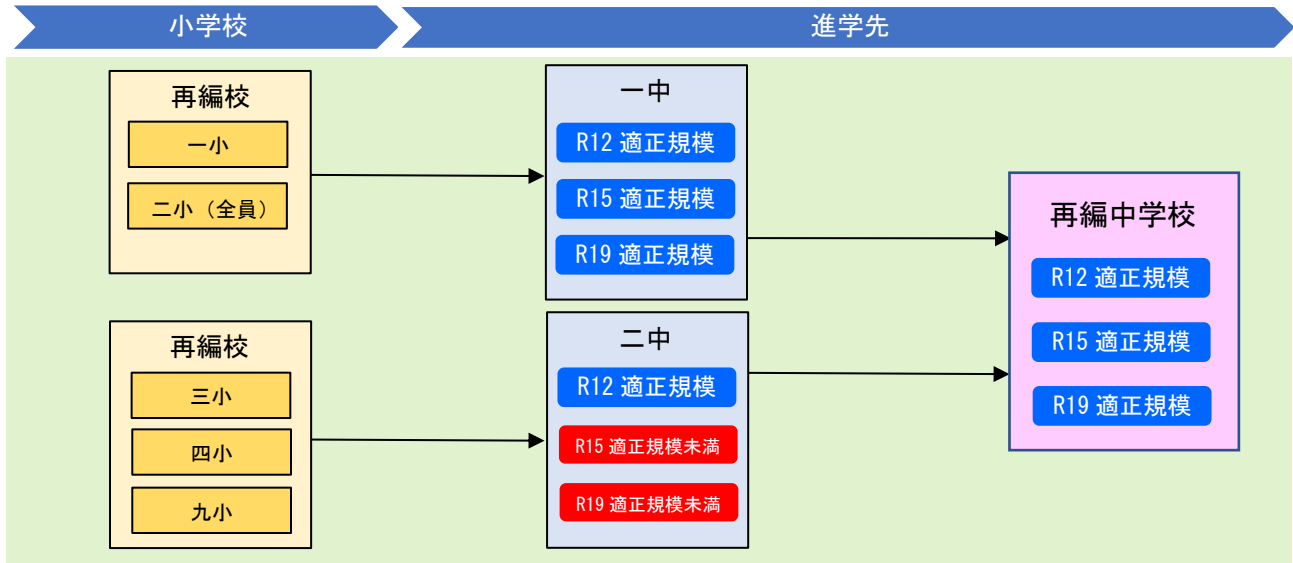
×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

4. 学校再編の組合せ（中学校）パターンG'

➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

・小学校 G パターンを基にした中学校同士の統合



■ 中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	369	12	337	11	306	10	291	9	305	10	306	10	324	11	289	10
二中	—	—	270	9	243	8	224	8	205	7	208	7	196	6	188	6	191	6
再編 中学校	—	—	639	20	580	18	530	16	496	15	513	16	502	16	512	16	480	15

※R8時点の特別支援学級数：一中（4）、二中（3）

■校地の比較（一中、二中）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
一 中	S51	34,716	6,051	27
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（20）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（7）を確保できる見込み ・最長通学距離※4：約6.8km（大島町）			
	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
二 中	H14	27,422	5,811	19
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（20）の確保に課題がある ・特別支援学級数※3（7）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約5.2km（大島町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数は R12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数は R8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離 (最長)	教室数の確保※6				小中連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	6.8km	一中	○	二中	×	可	必要

※5 ○：適正規模維持 ×：適正規模未達

※6 ○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

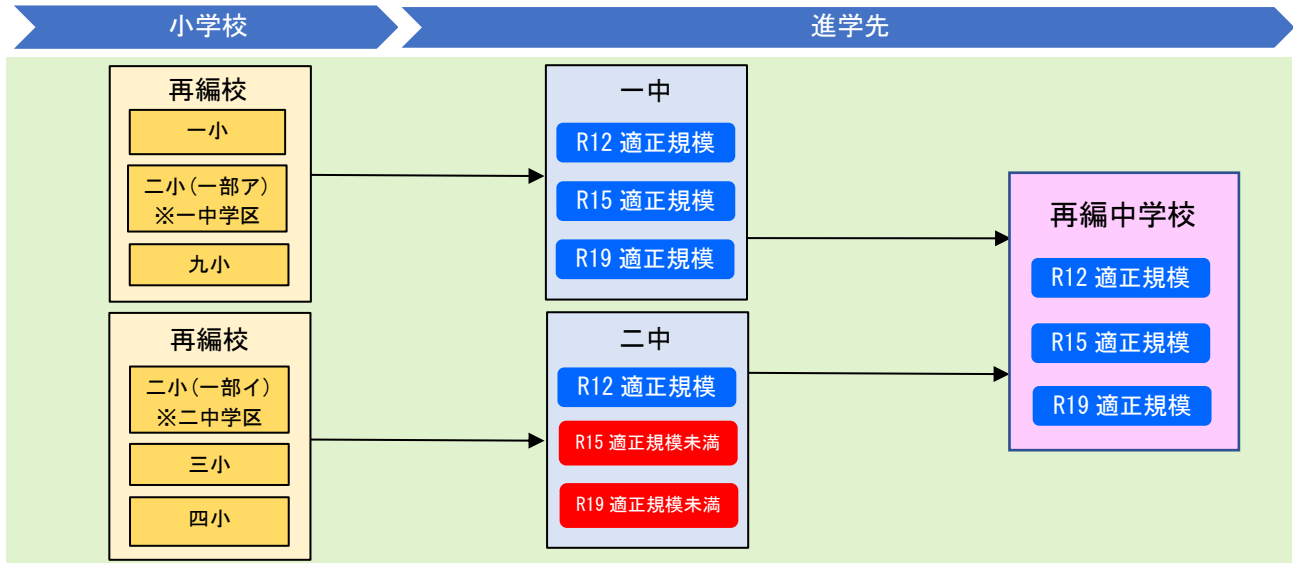
×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

4. 学校再編の組合せ（中学校）パターンJ'

➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

・小学校Jパターンを基にした中学校同士の統合



■ 中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	367	12	340	11	313	10	296	9	306	10	306	10	324	11	294	10
二中	—	—	224	9	198	8	181	7	162	6	170	6	162	6	158	6	157	6
再編中学校	—	—	591	18	538	17	494	16	458	15	476	15	468	15	482	15	451	14

※R8時点の特別支援学級数: 一中(4)、二中(3)

■校地の比較（一中、二中）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
一 中	S51	34,716	6,051	27
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3（7）を 確保できる 見込み ・最長通学距離※4：約6.8km（大島町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
二 中	H14	27,422	5,811	19
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3（7）の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4：約5.2km（大島町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離 (最長)	教室数の確保※6				小中連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	6.8km	一中	○	二中	△	可	必要

※5 ○：適正規模維持 ×：適正規模未達

※6 ○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

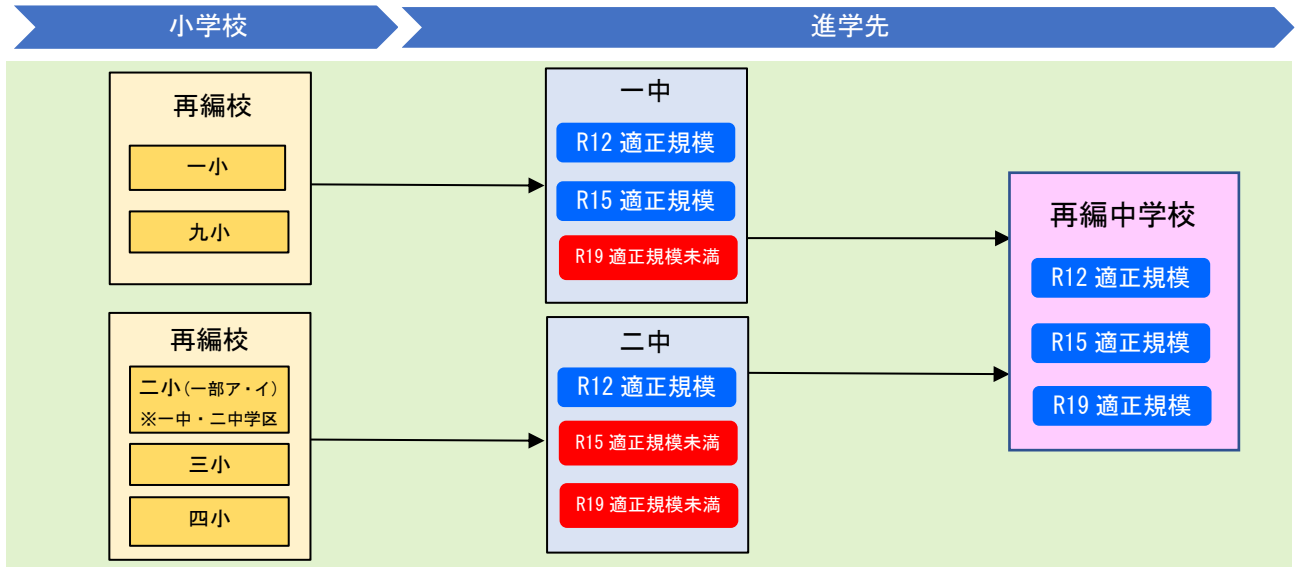
4. 学校再編の組合せ（中学校）

パターンL'

➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

・小学校L'パターンを基にした中学校同士の統合



■ 中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
一中	—	—	319	11	298	10	276	9	259	9	263	9	262	9	280	9	252	8
二中	—	—	272	9	240	8	218	7	199	6	213	7	206	7	202	7	199	7
再編 中学校	—	—	591	18	538	17	494	16	458	15	476	15	468	15	482	15	451	14

※R8時点の特別支援学級数: 一中(4)、二中(3)

■校地の比較（一中、二中）

一 中	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
	S51	34,716	6,051	27
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3（7）を 確保できる 見込み ・最長通学距離※4：約6.8km（大島町）			
二 中	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
	H14	27,422	5,811	19
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を 確保できる 見込み ・特別支援学級数※3（7）の 確保に課題 がある ・最長通学距離※4：約5.2km（大島町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離 (最長)	教室数の確保※6				小中連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	6.8km	一中	○	二中	△	可	必要

※5 ○：適正規模維持 ×：適正規模未滿

※6 ○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要